

A nighttime photograph of a building with several large, brightly lit windows. The interior lights are warm and yellow, revealing some furniture and decor inside. The building is surrounded by dense, dark green foliage, including tall grasses and leafy plants. In the foreground, there are some light-colored flowers, possibly hydrangeas, partially illuminated. The overall scene is dark, with the primary light source being the windows of the building.

ふらのみらいらぼ

ふりかえり帖
2024

はじめに

私たちは、年齢や立場を越えて、みんなでアイデアを出し合い自ら実践するワークショップを行っています。合言葉は、「まぜて、まなぶ」です。多世代の仲間が、互いの知恵や知識を出しあいながら交流の中で、富良野が「好き」、富良野を「大切にしたい」と、「このまちに住んでよかった」という心を育むことを目指しています。

活動を始めて9年目の今年は、4つのプログラムを展開し、約100名の方が登録しています。

私たちの活動をより多くの方に知っていただくために、2024年の活動をふり返り冊子にまとめました。たくさんのアイデアを寄せて、実践したワークショップの軌跡をぜひご覧ください。

もくじ

はじめに	
灯・ひと・アート 心にともす	4
灯りを学ぶ	6
灯りと向き合う	8
灯りと造形・絵画	10
灯りと写真	14
見て、作って、食べて 美味しいを探そう	16
声録り・音録り ふらのを伝える	18
コツコツ・プログラミング	22
特別ワークショップ 交流	23
ふらのみらいらば年表	24
おわりに	



あかり

灯・ひと・アート

心にともす

守る灯り、温まる灯り、美しい灯り、身近な富良野の灯りのこと、
どのくらい知っていますか？
今年は、灯りに着目し、灯りの歴史をひもとき、人々との関わりを深く

探って、その時々のはらめきや感動を「写真」や「絵画」「造形」などの
作品で表現し、小学生から80歳代まで多世代の参加による65点の作品展
に仕上げました。

灯りを学ぶ

あるおじいさんとまごの会話



まご: ジーじ、このあいだ、みらいらぼでたき火をしたんだよ。小枝を集めて、火を起こして、マシュマロやおにぎりを焼いて食べたよ。おいしかったあ。

おじい: ほお、たき火かい。なつかしいのう。昔、炊事遠足でたき火をしたっけなあ。

おじい: 私、初めてマッチを使って火をつけたの！マッチって、シュッとするとほのおが手にうつりそうになるんだもん、何回もマッチを放して失敗しちゃった。

まご: マッチが初めて！？
そうか、最近の家はほのおというものが少ないもん。ヒーターやらIHやらで。

おじい: 中学生は火打石^{ひうちいし}で火おこしてたよ。あれはもっともっとなんか。
まご: あっ、そうだ。ジーじ知ってる？マツって生の葉っぱでも燃えるんだよ！

おじい: マツの葉っぱをたき火に入ると、パチパチパチッと音がすていの！

まご: そうだったかねえ？

おじい: なるほど。そういや、たいまつって言葉があるくらいだからのう。松の明りって書いて松明(たいまつ)という。マツは油分を含んでいるから大昔から使われているんじゃないよ。

※松明(たいまつ)とは、松や竹などを束ね、火をつけて照明とするもの。

灯りの歴史



まご: 火を使う前って、どうしてたんだろう？食べ物とか。

おじい: どれも生で食べていたんじゃないだろう。肉でも植物でも。雷や自然発火で山火事があった時に、焼けた肉や植物の実や根のおいしいことに気づいたんじゃないだろうか。やわらかくなって消化も良かっただろうなあ。

おじい: 「なに！? このモノはうますぎる！」って言って食べてたかな？

灯りと向き合う

「灯りを知る・体感する」 2024年5月18日

昨年に続き、上富良野町にある石の彫刻家さんのアトリエにおじゃましました。当日は晴天に恵まれ、参加者25名で教育バスに揺られること約30分。たくさんの巨木に囲まれ、石がゴロゴロ転がる広大な敷地に到着。新緑がまぶしくキラキラしていました。講師によるレクチャーでは、特に「火」に着目して、その使い方に始まり、アイヌ伝承を辿って知る「火」の成り立ち、「火」との向き

合い方など、貴重なお話をいただきました。「火を体感する」ということで、グループごとに焚き火作りにも挑戦。石を積んで、集めた枝を組んで、火をつけます。参加した子どもたちにとって、「自分で火をつける」という体験は新鮮だったようです。火の扱いに詳しい大人が、「火打石」を使ってみたり、松明（たいまつ）を作るポイントを教えてくれたり、他にも新しい発見がたくさんありました。



マッチで火をつけるの初めて



火おこしはこうして



小枝がはぜる



もっと深くかまどづくり



焼けたかな？

森の中で煙を立てた日

文 / 彫刻家 山谷 圭司

今の人は冬でも暖かく、夜でも明るい家に住んでいます。電気や灯油、ガスがあるからです。こうしたエネルギー源はみんな遠いところから運ばれてきたものです。ずっとずっと昔の人は家の周りから木を集め、家のまんなかの囲炉裏（いろり）で燃やして、それで暖まり、灯りを採り、煮炊きをするのが当たり前のことでした。だから夏の暑い時でも火を絶やしてはいけなかったようです。でももしかしたら、今の私たちが考えるより、火きり棒や火打ち石を上手に使って火起こししていたのかもしれない。今年は「灯・人・アート」ということで「あかり」をテーマに火を起こしましたが、これが夜の森の中だったらと想像します。小さな火のあかりと暖かさが、もっと身と心に染み込んではいないかと想像しました。夜空にはたくさんの星あかり、暗い地上にはあちこちで小さな焚き火のあかりが見えていただけの時代が数十万年。それが今は宇宙からの写真で見ると、夜の地球は星の数より多

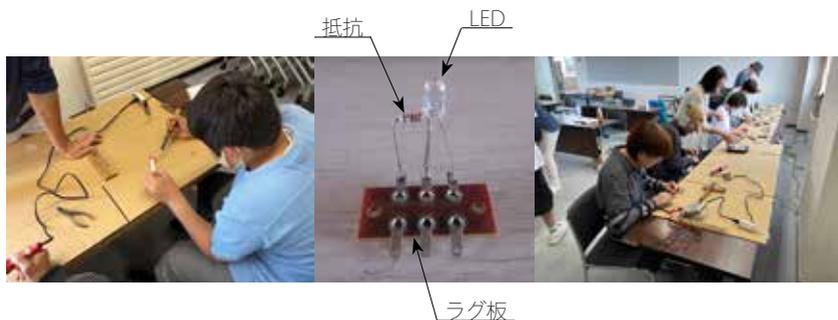
いかと思うほど、あかりの帯や塊（かたまり）でまぶしいほどです。それがたった百数十年ばかりの間に起ったことです。会の最後にお話したことの復習です。ハルニレをアイヌ語で「チ・キサ・ニ＝私たちが・こする・木」と言います。大昔、地上の国造りが終わったあと、この木がとても美しかったので、空の上の雷様が見とれていて、この木に落ちこちてしまい、それで雷様とハルニレの女神の間に子供が生まれました。その子がアイヌラックルと呼ばれ、人間にハルニレを使った火起こしを教えたということです。雷の落ちたハルニレが燃え、人間が本当にそこから火を採ったことがあったのかもしれない。マッチも擦ったことのない子供たちに、火のありがたさ、そして怖さを少しでも追体験してもらえた一日になったのなら、人類の先輩として少しは務めを果たせたような気になります。でもマシュマロやチャパティの味の方が記憶に残るのかな？



灯りと造形・絵画

“灯り”装置をつくる 2024年6月16日

電子工作の達人を講師に迎え、LED ランプを使って「灯り」の製作に挑戦。会場に用意されたラグバン、LED、抵抗、電池、電池ボックスなどの部品を使って、一人ひとつ装置をつくります。きちんとランプを点灯させるためには、電子回路の仕組みを知って、丁寧に部品を取り付けることが必要です。冒頭の説明では「難しそう」という空気が漂いましたが、実践に移ると、事前にレクチャーを受けたスタッフや電子工作経験のある参加者のサポートを受けながら、みなさんコツコツ真剣に手を動かしていました。



灯り作りによせて

文 / 高島 義和

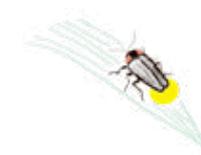
今回、LED を使った灯り作りを行いました。現代では様々な既製品が溢れており、わざわざ自分で何かを作る必要性は減っていますが、この経験に意義を見出したいと思います。今回の製作を通して、自分の思いを反映させたものを作り上げた喜びとともに、もの作りの難しさも感じられたことでしょうか。実用に耐えうるものを作るには、自然の法則や物事の道理の理解、試行錯誤による技術の洗練が欠かせません。見えないところも含め、

手間と時間をかけ、きちんと作ることで、より、きちんとしたものが出来ます。当たり前のことを行って初めて当たり前の結果が出る、ということをももの作りは教えてくれます。もの作りの経験を積むことにより、世の中のいろいろなことに関する理解も増し、思慮深く、心穏やかに過ごせる時間も増えるかもしれません。作った灯りを眺めながら、そんなことにも思いをはせてみたいと思います。

森の夜の“灯り”を探そう

2024年7月27日

富良野で蛍が見られる貴重な場所「山部自然公園・太陽の里」に行きました。夕暮れの焚火を楽しみ、火にまつわる思い出話をしながら、暗くなるのを待ち、いよいよガイドを先頭に真っ暗な森へ…。いまました！たくさんの蛍の乱舞、幻想的な光景にみんなで見入って素晴らしいひとときでした。



ほっほっ ホ〜タルこい

みんなで“灯りづつみ”を作ろう

2024年8月25日

LED 灯り装置を覆う「灯りづつみ」を作りました。イメージを形にしようと、それぞれに黙々と工作がスタート。灯りを包むアイディアは多種多様です。楽しくおしゃべりしながら、せっせと手を動かして、共同制作「あかりてらす」の土台づくりも並行して行いました。



工作はお手のもの

“灯り”をテーマに絵を描こう

2024年9月8日

今回は「木炭」を使った静物画に挑戦。みんなで昔ながらの「ランプ」をモチーフにデッサンをしました。画材専用の「木炭」を使うのは、参加者のほとんどが初めての経験です。布で軽く擦ったり、食パンで消したり調子を整えて、個性の光る作品ができあがりました。



サラサラ手が動く

あかりてらす

原初

灯りを手にした私たち

途中 幾多の

困難をのり越えて

さしたる 言語の混乱もなく

上へ上へと

歩みをすすめる

対比する 青い闇

既におぼつかなくなった

足元をてらす

梯子から落ちぬよう

そして

子どもらの未来をてらす

ともすると見失いがちな 道程を

確かにてらす

木炭画

まっさらな 木炭紙を前に

少し躊躇する

この 緊張感 ...

木炭の 柔らかなタッチ

軽く 指で押えると

グレーの ハーフトーンの 感触

黒と白と 灰色の

絶妙な バランス

描き すすめるほどに

対象が にわかに 語る

モチーフと 私だけの 会話

心の 奥 深くで ...

己の 認知しない 深層から

沸き出るもの

無意識下の 世界が

表出する

灯りと写真

灯がともる

文・写真 / 写真家 石黒 誠

5月18日。晴れて新緑がきれいだった。上富良野町にある彫刻家山谷圭司さんのアトリエへ、皆でバスに揺られて伺った。アトリエに隣接する、まるで森の中の川原のような、大小の石を敷き詰めた広場で、班ごとに分かれて小さなかまどをつくり、火を焚いた。シラカバから樹皮をむいた「ガンビ」にまず着火して、細い枝をくべて火を育て、しっかりした焚火ができたところで、マシュマロ

を焼いた。いつの間にか、どこかに忍ばせて来たソラマメを焼いている人もいた。昼が近づくころ、それぞれに敷物に座って、持ってきたおにぎりを頬張った。小さな焚火があちこちで煙をたなびかせて、溶けたマシュマロが口の横についた子どもがいて、子どもからすれば祖母のような人たちが笑っていた。これ以上静かで、柔らかくて、優しい風景はないように思えた。ㄝ



ㄝ 7月7日。夜、暗くなってからワークショップ「灯を撮る」で、17人の皆さんとろうそくやLEDの明かりを撮った。

「ピントは線や模様があると、暗くても合いやすいです。合わなければ合うまでがんばってください」「暗いのでブレます。ISO感度を高くできればよいですが、そんな機能が無いカメラはあきらめて、カメラを机に置いたりしてがんばりましょう。ブレも味です」

細かな技術論より、みんなで楽しく撮ることが何より大事。かなりいい加減なレクチャーののち、暮しステーションの

2階や庭でそれぞれに淡い光と向き合った。撮影が始まると、薄暗い会場はしんとした。一通り会場を回ってみると、それぞれが無言で灯にカメラを向けており、暗い中でゆらめくともしびは魅力ある被写体なのと思った。

火、ろうそく、オイルのランタン、電球、蛍光灯、LED。灯がなければ私たちは暮らせない。そして写真は灯り、光がなければ写らない。ただ撮れない灯もある。心のなかの灯だ。今年のワークショップで、みんなの心に灯りがともったのだろうか。

灯りポートレイト撮影にチャレンジ 2024年7月7日

薄暗くなった夕方、会場に集合。プロの写真家を講師に迎え、「暗闇」の中で“灯り”を撮るレクチャーを受けました。その場で撮影した写真をリアルタイムでモニターに映し出し丁寧にポイントを教えていただきました。

持参したカメラと光源を持って、アトリエやカフェスペース、さらには庭に出て、それぞれスポットを見つけ撮影スタート。あちこちに灯りがつき、いつもと違う光景でした。

キャンドルやガラスのオブジェなど、皆さん厳選のアイテムを被写体に、限られた時間で色々なアングルを試したり、光源を替えたりと、会場は撮影する皆さんの真剣な熱気に包まれました。



息を止めて カシャ！



パネル貼りの手ほどき
仲間も集中

見て、作って、食べて 美味しいをさがそう

ハスカップでジャムづくり 2024年6月29日

まずは果樹園の整備から



畑作業のベテランは、慣れた手つきでザクザク草刈り。頼もしい！

みんなで力を合わせてどんどん綺麗に！

続いてハスカップの収穫



ハスカップの果樹がたくさん並んでいて、摘んでも摘んでも、まだ摘める！

ジャムづくり 於：生涯学習センター

みんなで摘んだハスカップ。綺麗に洗ってゴミ取り。



グツグツ煮えてジャムっぽく。



出来立てのジャムを瓶詰め。



2022年に始まった山部の私設果樹園での「美味しいもの探し」。本年度は、小枝ひろい、下草刈りの作業体験に汗を流し、調理室では、講師のトキッチンさんの指導のもと文字通り実りあるワークショップ「まぜて、まなぶ」を実践しました。日ごろの園の環境整備は、オーナーさんをはじめシニアのボランティアさん達が協力してくださいました。

“トキッチン”のかんたんおやつづくり 2024年7月14日

果樹園でベリーの摘み取り

色の良い大粒のベリーを探す。昨年も参加した子ども達は、慣れた様子で摘むのも早い！！



生涯学習センターに移動して調理



たっぷりの果実、なんとも贅沢なおやつづくり。



スコーンっぽく成形 グループごとに個性が。



グループに分かれて活動。



良いきつね色に。

完成！富良野の“美味しい”をみつけました。



声録り・音録り ふらのを伝える

番組づくりへの第一歩 - わたしの好きなふらの - 2024年6月9日

「ふらのを伝える」にはどのような方法があるかをみんなで考えました。「わたしの好きなふらの」と題して、私たちが住む富良野のまちの良いところを書き出すウォーミングアップからスタート。ラジオ番組制作の経験者から、番組の種類や制作に必要なことに加え、コミュニティラジオとインターネットラジオの違いについても学びました。イメージが広がったところで、それぞれの番組内容の希望や提案を、グループごとに活発な意見交換をしながら書き出しました。「大昔のふらのと今のふらの」「旬のふらの野菜を使った今夜のおかず」「移住者とふらの出身者のトーク」…など盛りだくさん。今後の展開に期待がふくらみます。

- ▶ 「放送で言ってはいけない言葉」といった放送上のマナーについて学ぶ
- ▶ 「座談会」「音録り」「ドラマ」の3本の番組を作ることが決まる
- ▶ 3グループの主要メンバーが決まる
- ▶ 音を収録する方法についてレクチャーを受ける
- ▶ 各グループが集まり互いの進捗を確認する



意見交換中



ただ今収録中

7月

8月

9月

2024
6月
Start

番組制作
半年の
あゆみ

10月

11月

12月
Goal

- ▶ グループごとにミーティングを重ね台本を練り上げる
- ▶ 収録を始める

▶ 技術担当やっさんによる編集作業

▶ 試聴会

▶ 77.1MHz ラジオふらので放送



ふらのを考え ふらのを書きおこす

子どもたちの元気な声、静かで強い大人の声、嬉しい友情出演の声、仕事の合間の少しかけ出演の声、そして、富良野で聴こえるいろいろな音で“ふらの”を伝える。まぜて、まなんで、“ふらの”がたっぷり詰まった三つの番組ができました。

番組づくりのいろはを学び考える 2024年6月22日

冒頭に滑舌レッスンを行い口の周りの筋肉をほぐしたところで、前回の活動を振り返りながら、今後どのように番組を作り上げていくかアイデアを出し合いました。「わたしの好きなこと」を放送台本の体裁で書き、それを録音して聴いてみる体験をしました。簡易スタジオでの収録は少し緊張した様子でしたが、録音した自分の声を聴くことは新鮮だったようです。さらに制作の経験者から、作り方や台本の書き方のポイントをお聞きした後、活発な議論が繰り広げられ、番組づくりへの参加者の強い意欲が感じられました。

みんな集まれ！みらいラジオ

ふらのみらいらぼ制作ラジオ番組のご紹介

タイトル：『ふらのコーヒータイム』 制作：座談会グループ

参加メンバーは、今年度の「ふらのみらいらぼ」全てのプログラムに参加してくれたシニア4名。その時々をイキイキと楽しんでいた様子から、活動を振り返る会話をそのまま番組にすることに。周囲のアドバイスを受けながら番組制作を積極的に進めていくが、ある時、宿題としていた文章作りを全員すっかり忘れてしまうという「行き詰まりの壁」に突き当たる…。みなさんそのようなお年頃なので無理もない？(笑)収録中にもさらなる課題が。紙原稿を手元に置きたいみなさん。しかしマイクが敏感に音を拾うため、紙をめくる音、すれる音はNG。そこで考えたのがダンボール紙のカンニングペーパー。そこに大きな文字で話題のヒントを書いておく。そうすることで会話が途切れることもなく、自然な会話の座談会となり大成功。このように「年の功」が発揮されたシーンもたくさんありました。

タイトル：『ふらの・音コレクション』 制作：音録りグループ

みんなで集めた四季折々の富良野の音を、3人のトーク形式で紹介する番組です。聴こえてくる音は、エゾハルゼミ、散歩道の小鳥たち、富良野駅での列車到着、鐘の音、へそ祭り、子ども盆踊り、富良野神社祭、花火大会、秋の散歩道、虫の声、愛の鐘、白鳥の12個。富良野駅で収録した“列車到着の音”には、「根室線の富良野から落合まで廃止になりましたものね」「高校の頃、汽車通で山部から富良野まで通いましたよ」「いまだに廃止の踏切で一時停止してしまう」といった会話が生まれます。いろいろな富良野の音に耳を澄ませて、新たな発見をしたり、今年の富良野を振り返ったり、昔の思い出を語ったりしました。収録した場所も番組内で紹介しているので、富良野の皆さんにはとても身近に感じてもらえるのではないのでしょうか。



タイトル：『タイムパトロール』 制作：ラジオドラマグループ

「家康、ふらのに現る！」「果たして、歴史は塗りかえられてしまうのか！」昨年度制作したラジオドラマに続くシリーズ第二弾として、一人の小学生を中心に、ワークショップ参加のみなさんが一丸となってオリジナル脚本を仕上げました。老若男女のメンバーがスケジュール調整を重ねて何度も集まり、文章や構成を辛抱強く練り直しました。一つのセリフやシーンに「こだわる」「こだわらない」を行ったり来たり、熱い議論を交わしながら、ようやくラジオドラマが完成。この一本の脚本を前に、数えきれないほどの学びがあったことでしょう。さあ、来年には第三弾にチャレンジできるかな？

耳から伝える 富良野の魅力！

文 / 技術担当 大場 恭秀

今の子供達には、むかしむかしの世界なのかもしれませんが・・・後期高齢者となった私達の少年時代にはテレビも洗濯機も冷蔵庫も、もちろん電話も一般家庭にはなかったのです。今、考えるとちょっと不思議な気がするんですけど、電化製品の中でラジオだけは、どの家庭にもあったような気がします。ニュース、天気予報、野球・相撲、ドラマ、歌、漫画、その他芸能や当時の流行などはすべて、ラジオが情報源になっていたのです。ラジオから流れる音声だけでその情景を想像し、姿かたちを感じ、色まで感じていたんです。すごかったんですよ。ラジオの力は・・・時代は変わって、ラジオの存在価値も薄れてきましたが、そんなラジオから、自分の声が流れるって、びっくりです。

「声と音で富良野の魅力を伝える」そんな企画が未来ラボの活動のひとつになりました。去年は、小学生から80代のおじいちゃんまでみんなの共同作業で、5本ものオリジナル脚本ができてラジオドラマを作っちゃったんです。ラジオから流れる自分の声を聞いたとき、「あれ、自分の声って、こんな声だったけ？」と思ったけれど、ちょっとうれしい気持ちにもなります。続きがあります。今年も、ドラマに加えて富良野の音を集めたドキュメント番組や、座談会番組なんかを作っちゃいました。あなたの耳から富良野の魅力を声と音から感じ想像していただけたら嬉しいです。

コツコツ・プログラミング

5月から9月まで月に1～3回程度、自習室を開催し、参加者同志が教え学びあいながら、文字通り「コツコツ」とScratchプログラムやデジタルイラスト制作に向き合ってきました。その集大成となる作品展を、10月13日に図書館会議室にて開催。当日は朝から参加者みんなで展示準備をして、午後から一般公開。50名程の来場者楽しんでいただきました。

自習室のある日の様子



ここはこうしたら上手くいくよ



黙ってコツコツ

集まって
どうする
こうする

作品展当日の様子



事前準備も力をあわせて



たくさんの方に作品を
楽しんでいただきました



展示された
電子工作作品に
興味津々



来場者：
『これ、どうやって操作するの?』

ゲーム制作者：
『タイミングを合わせて
キーを押すんです』

特別ワークショップ 交流

まぜて、まなんでいる私たち、今年度は東京の大学生を講師に「仲良くなる」ワークショップを二回にわたって挑戦、交流しました。新鮮なアクティビティを通してたくさんの気づきがありました。

■カードで遊んで仲良くなろう「脳トレ! 灯トークゲーム」 2024年9月16日

いつもと違う切り口でカードゲームを楽しみながらみなさんと交流



テーマがある
ので
会話とはちがいで
深く話すことが
できた

いつもとは違う
楽しさがあった
若返りました



大学のない
富良野で
学生との触れ合いが
貴重な機会でした

■「百人一首 下の句かるたで仲良くなろう」 2024年10月27日

北海道独特の文化「下の句かるた」経験者、初心者問わず混ぜてチーム戦



初めて
「下の句かるた」
に触れる方々の不安も
経験者のサポートで
見事解消



文字が
読めなくて
苦戦しました

下の句かるたの
存在を初めて
知りました

数十年ぶり!
楽しい!

ふらのみらいらば年表

年	プログラム	内容
2016	ふらのみらいらば オリエンテーション まちをつくらう ふらのゆめらんたん 空から鳥になって ふらのを知ろう	多世代が同じ立場で学び合うワークショップ・プログラム4つを紹介。 みんなで夢を持ち寄り「らんたん」を揚げた。参加者約250名、150基。 自分の「daisuki」を探す、ふらののまちなみジオラマ制作ワークショップ。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	「みんなで作って、一緒に食べる」を大切に、地産食材の料理に挑戦。
	はたらく人になって ウェディングプランナー	はたらく人、しごとを知る。「ふらのみらいらば presents HAPPY WEDDING」を開催。当日約380名参加。温かい拍手と笑顔で幕を下ろした。
	東京大学体験活動プログラム共催	「文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地のまちづくり体験」
	富良野市民総合文化祭	ふらのみらいらばの活動を広く市民に周知する目的。
	ギャザリングパーティ・ ワークショップ	4つのプログラムの進捗状況を共有、プログラムを超えて協力し合う。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	「みんなで作って、一緒に食べる」を大切に、地産食材の料理に挑戦。
	はたらく人になって ICTエンジニア	「プログラミングって何？」から始まり、「U-16プログラミングコンテスト」参加。
	空から鳥になって ふらのを知ろう	高齢者大学(ことぶき大学)で実践。A4サイズのジオラマづくりを通し先輩方の富良野への思いを知る。
	富良野市民総合文化祭	ふらのみらいらばの活動を広く市民に周知する目的。
2017	サウンド&ムービーズ ふらのを伝える	77.1MHz[ラジオふらの]と連携、収録・制作するラジオ局体験プログラム。
	はたらく人になって ICTエンジニア	身近な遮断器や押ボタン信号機システム製作の電子工作にチャレンジ。「U-16プログラミングコンテスト」に参加。
	森・まち・アート 白い服プロジェクト	富良野市麻町の歴史を紐解き、白い麻布で服を自ら手縫い、先人の記憶に思いを馳せる。縫い上げたそれをまとい撮影、アート作品に仕上げる。
	富良野市民総合文化祭	ふらのみらいらばの活動を広く市民に周知する目的。
	大学院/特別ワークショップ(科学)	テーマ:「ひせいぶつ〜ベミクロな世界へご招待」中山宗一郎講師
	サウンド&ムービーズ ふらのを伝える	テーマ:「味と匂いから見る豊かな世界」藤林駿佑講師
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	声楽家とピアニストを講師に迎え、市内歌声サークルと少女合唱団メンバーが童謡や唱歌を歌うワークショップ。その歌声を収録、ラジオ放送。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	来訪中の大学生たちと、「お膳立てのない料理」を実施。
	森・ひと・アート 緑の線プロジェクト	富良野の森の成りたちや歴史を学習、写真・造形・絵画班で活動初めての体験にとまどいながら、市街地を緑どる森の存在をあらためて認識。
	富良野市民総合文化祭	ふらのみらいらばの活動を広く市民に周知する目的。
2019	はたらく人になって ICTエンジニア	プログラミング電子工作に挑戦。停留所に近づくバスの再現。高校生が講師役、小中学生をリード。「U-16プログラミングコンテスト」に参加。
	大学生/特別ワークショップ(哲学)	「多世代でまざる」を哲学する。テーマが散らばり、笑い、沈黙、粘って話す。考えるレッスンで他者の発言に真剣に向き合う90分。角田将太郎講師
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	畑のかぼちゃにフォーカス。育て方、品種、採り頃の見分け方などを知り収穫体験。かぼちゃの食べ比べ、かぼちゃをモチーフに版画制作にも挑戦。
	サウンド&ムービーズ ふらのを伝える	「ラジオって何?」「どんな時役立つ?」「マイクの前の心構え」や番組作りを学習。スタジオで実収録練習の後、番組制作体験。
	はたらく人になって グラフィックデザイナー	ふらのみらいらば参加募集のチラシをみんなで作成。チラシとは何か、何を伝えるかなどをディスカッションし、構成、色彩、キャッチコピーなど、参加者それぞれの提案を一つのデザインにまとめた。
	空から鳥になって ふらのを知ろう	「空」がテーマ、太陽・雲・空気・月・星などとの深いかかりを探って、そのひらめきや感動を「写真」や「絵画」などで表現。写生会、星空観察会、航空機パイロットによる講演会や、「空」の絵本の読み聞かせなど企画、多面的に「空」を認識した。
	コソコソ・プログラミング	「U-16プログラミングコンテスト」で、個人競技部門で表彰台の1位〜3位を独占、作品部門では審査委員長特別賞を受賞。皆で教えあいコソコソと積み上げてきたものが結実。小学校低学年を対象とした初級ワークショップも開催し、着実にプログラミング仲間が増えてきている。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	コロナ禍を経て、念願の開催。山部の私設果樹園で収穫した7種のベリーをブレンドして班ごとにジャム作りを体験。果樹園に立ち寄って、たわわに実ったベリーの収穫体験も行うことができた。
	声録り・音録り ふらのを伝える	FM77.1MHz「ラジオふらの」の電波に声をのせて「ふらの」を発信しよう企画。「ふらのを伝える」をテーマに考え出したキーワードをヒントに、30分のオリジナル番組に取り組み収録、放送。
	石・ひと・アート 足もとで気づき	芦別岳や十勝岳、なまこ山や富良野盆地と石のかかりを深くさぐって、その時々々のひらめきや感動を「写真」や「絵画」などの作品で表現、作品展に仕上げた。「石」を知り、積み、割り、彫り、描き、撮り、そして感じた。

年	プログラム	内容
2020	川・ひと・アート 水の世界	ビデオ会議アプリを使って双方向に行うメディア・ワークショップ。市内、旭川、東京、京都から参加、30名程のつながり。市内を流れる空知川がどこで生まれて、どこへ行くのか、「川」を知って、流れを肌で感じて、その時の気づきやひらめきをアート作品に仕上げた。
	はたらく人になって ICTエンジニア	オンライン「U-16プログラミングコンテスト」に向け「密」を避けて切磋琢磨。高校生から中学生へ、中学生から小学生へと、技術が引き継がれていく。
	土・ひと・アート 大地見聞	足元の「土」、野山の「土」、田や畑の「土」、身近な富良野の「土」を知り、その時のひらめきや感動をアート作品展に仕上げた。
	はたらく人になって ICTエンジニア	「U-16プログラミングコンテスト」向け及び小学校低学年対象のワークショップを開催。中学生のサポートにより、小学生に技術が引き継がれる。
	オンライン/特別ワークショップ(環境)	「最先端に出会う*東大・中高生オンラインセミナー」に参加。テーマ「気候変動と社会の未来〜わたしたちができることを考える〜」。気候変動を考え、対話し続けることが大切と認識、今後もワークショップを継続予定。
	広報活動(ラジオ放送)	活動を広く知らせることが目的。「土・ひと・アート 大地見聞」ワークショップの様態、感想などを盛り込んだラジオ番組を制作し、3回にわたり放送。
	空・ひと・アート 思いっきり深呼吸	四季折々ことあるごとに見上げる「空」がテーマ、太陽・雲・空気・月・星などとの深いかかりを探って、そのひらめきや感動を「写真」や「絵画」などで表現。写生会、星空観察会、航空機パイロットによる講演会や、「空」の絵本の読み聞かせなど企画、多面的に「空」を認識した。
	コソコソ・プログラミング	「U-16プログラミングコンテスト」で、個人競技部門で表彰台の1位〜3位を独占、作品部門では審査委員長特別賞を受賞。皆で教えあいコソコソと積み上げてきたものが結実。小学校低学年を対象とした初級ワークショップも開催し、着実にプログラミング仲間が増えてきている。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	コロナ禍を経て、念願の開催。山部の私設果樹園で収穫した7種のベリーをブレンドして班ごとにジャム作りを体験。果樹園に立ち寄って、たわわに実ったベリーの収穫体験も行うことができた。
	声録り・音録り ふらのを伝える	FM77.1MHz「ラジオふらの」の電波に声をのせて「ふらの」を発信しよう企画。「ふらのを伝える」をテーマに考え出したキーワードをヒントに、30分のオリジナル番組に取り組み収録、放送。
2021	石・ひと・アート 足もとで気づき	芦別岳や十勝岳、なまこ山や富良野盆地と石のかかりを深くさぐって、その時々々のひらめきや感動を「写真」や「絵画」などの作品で表現、作品展に仕上げた。「石」を知り、積み、割り、彫り、描き、撮り、そして感じた。
	コソコソ・プログラミング	「U-16プログラミングコンテスト」、今年度も好成績を受賞。パソコンを通して、友だちと、上下級生、大人、子ども。正に「まぜて、まなぶ」現場。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	山部の果樹園で摘み取った果樹で簡単おやつ作り。美味しい〜が今年も見つかり、人気の高いこのプログラムは、嬉々とした参加者の表情が印象的。多種多様な作物の生産地である富良野において継続が期待される
	声録り・音録り ラジオドラマづくり	年齢、立場、性別を超えて「まぜて、まなぶ」にふさわしい画期的プログラム。小さく弱い声も、誘い誘われ参加することで大切なポジションに。私たちの大好きな富良野をもっと広く知らせたいという気持ちで、5つのラジオドラマ作品にちりばめられた。
	灯・ひと・アート 心にともす	灯に着目。原始から現代までの灯りの移り変わり一部を体験。火をおこす、温まる、調理する、明るく照らす、加えて蛍火の観察。夕闇の中での写真撮影。象徴的な古いランプを、画材専用の木炭で描き額装。「あかりてらす」と題した造形をみんなの手で少しずつ仕上げる。計65点の作品展を開催。
	コソコソ・プログラミング	Scratchプログラム、デジタルイラストを図書館祭りで展示。大勢の来場者と交流、大人も子どもも一緒に半年の頑張りと成果を認め合った。
	見て、作って、食べて 美味しいを探そう	果樹園の枯草ひろい、下草刈りなどの整備を体験。手入れに汗を流したのち、果実摘み。仲良くなった参加者同士でジャムづくり。美味しいものを一緒に見つけた。
	声録り・音録り ふらのを伝える	ふらのを広く伝えるため、ふらのの長所短所を掘り起こして、ラジオ放送のいろはを学んで番組を組み立てた。座談会的トーク、音集め、ドラマの計3本が仕上がりに、77.1MHzラジオふらので放送。
	大学生/特別ワークショップ(交流)	「まぜてまなぶ」きっかけづくりの「カードゲーム」と「百人一首」に挑戦。初参加者もスタートからコミュニケーション力全開。橋本匠講師



おわりに

年齢や立場を越えて仲間が集い同じ時間を共有する私たちのワークショップは、いつも新鮮な驚きや発見があります。今年も世代を超えた仲間の輪がたくさんできました。

このような体験を積み重ねることで生まれる小さなつながりが、富良野の「まちづくり」への良いきっかけになることを願っています。9年という時の流れと共にワークショップの形やメンバー構成は変化していますが、ゆるやかなつながりを大切に、これからも交流の場を生み出していきたいと思います。

ふらのみらいらぼ ふりかえり帖 2024

発行日 2025年(令和7年)2月
 編・刊 一般社団法人 富良野デザイン会議 暮しステーション
 ふらのみらいらぼ
 〒076-0011 富良野市末広町18番5号
 電話・FAX : 0167-23-4000
 電子メール : fml@kurashi-s.sakura.ne.jp
 編集 ふらのみらいらぼ事務局
 イラスト yachiko